

Nihon Ongaku Shudan (Pro Musica Nipponia)

日本音楽集団

第一〇一回◆定期演奏会

(第100回定期演奏会記念シーズン——④)

伝統音楽の発展的継承を考える

伝統音楽シリーズ・その10

司会—宮田耕八朗

一九八七年十一月十八日「水」(午後七時開演
午後六時三十分開場)
芝abc会館ホール

ごあいさつ

前回〈箏曲の巨匠たち〉以来、4年ぶりの伝統音楽シリーズは、“伝統音楽の発展的継承を考える——”ということで構成しました。新たに編曲に取り組んだ3曲を含め、いずれも古典の名曲といわれるものへの試みを、宮田耕八朗の解説を交えながら演奏してまいります。皆様もご一緒に新しい伝統音楽について思いを馳せていただければ幸いです。

一、新八千代獅子

日本音楽集団 編曲

〔 笛 〕 望月 太八 〔尺 八〕 宮田耕八朗 〔三味線〕 太田 幸子
〔琵琶〕 坂田 美子 〔胡 弓〕 田中悠美子 〔箏 I〕 木村 玲子
〔箏 II〕 宮越 圭子・大島菜穂子・久東 寿子 〔十七絃〕 熊沢栄利子
〔打楽器〕 尾崎 太一・高橋 明邦・望月太喜之丞

二、千鳥の曲

長沢 勝俊 編曲

〔 箏 〕 花房はるえ・熊沢栄利子・大島菜穂子 〔十七絃〕 久東 寿子

三、六段の調

三木 稔 編曲

〔独奏箏〕 宮越 圭子
〔二十絃〕 佐藤由香里・中野はるな・山田 明美 〔十七絃〕 福井 久代

四、新編「平家物語」〈初演〉

秋岸 寛久 作曲・田原 順子 構成

〔筑前琵琶〕 田原 順子 〔薩摩琵琶〕 半田 淳子 〔 笛 〕 竹井 誠
〔尺 八〕 米澤 浩・素川 欣也 〔二十絃〕 熊沢栄利子・中野はるな
〔十七絃〕 佐藤由香里 〔打楽器〕 高橋 明邦
(薩摩琵琶の出)

昨日は東関の麓に轡(くつばみ)を並べて十万余騎 今日 西海の浪にともづなを解いて七千余人 雲海沈々として すでに暮れなんとす/島を隔て 月海上に浮べり/花をかけ 潮に引かれてゆく船は 半ぞらの雲にさかのぼる

(中略)

海上には赤い旗じるし 投げすてかなぐりすてたりければ/龍田の川のもみじ葉を 風の吹き散らしたるがごとし/みぎわによする白浪も 薄くれないにぞなりにける 主も空しき船々は 潮に引かれ 風に従って いづくを指すともなく揺られて行くこそ悲しけれ/頃は三月二十四日のことなれば 海路遙かにかすみわたる/ただ大方の春だにも 暮れゆく空はものうきに いわんや今日を限りのことなれば 衰れをもよおすばかりなり

平家物語より知盛の入水を中心に自由に詩を選び、筑前、薩摩2種類の琵琶と邦楽器群のための二重協奏曲にしました。平家を題材にした古典の曲とは特に関係ありませんが、全体に古典的なイメージでまとめました。(作曲者)

五、楫 枕

宮田耕八朗 唄手付

〔う た〕田原 順子 〔三味線〕野口美恵子 〔 箏 〕花房はるえ

空艫(からろ)押す 水の煙の一方に 靡(なび)きもやらぬ川竹の 浮節繁き 繁き浮寝の泊り船 寄る寄る身にぞ思い知る／浪が涙か苦(とま)もる露か 濡れにぞぬれし 我袖の しぼる 思いをおし包み 流れ渡りに浮れて暮す 心づくしの楫枕

差して行衛の遠くとも 遂に寄るべは岸の上の 松の根堅き契りをば せめて頼まん せめて頼まん頼むは君に 心許して君が手に つなぎ止めてよ千代萬代も

六、新越後獅子<改訂初演>

内田とも子 編曲

〔 笛 〕竹井 誠 〔尺 八〕米澤 浩・素川 欣也

〔三味線〕野口美恵子 〔琵琶〕田原 順子

〔箏 I〕吉村 七重・桜井 智永・福井 久代

〔箏 II〕大畠菜穂子・山田 明美 〔十七絃〕宮越 圭子・久東 寿子

〔打楽器〕尾崎 太一・細谷 一郎

新越後獅子は今回で3度目の改訂となりました。曲の構成は、長唄の越後獅子にかなり忠実な形をとりました。全体として、すっきりした中編の曲作りを心がけたのですが、大変難しい作業でした。(編曲者)

フレッシュコンサート

子守唄

内田とも子 作曲

〔尺 八〕I素川 欣也・II竹井 誠・III米澤 浩

肩が凝らずに聞くことができ、思いっきりリラックスできる曲をと思って書いた曲です。三本の尺八のバランスをとることを、大切に考えました。それぞれの尺八の豊かな表情を感じていただけたら幸いです。(作曲者)

第102回定期のお知らせ

日本の楽器でえがく音の絵本 日本音楽集団第102回定期演奏会

めるへん ほうきぼしとチョコレート

大橋 喜一 作・内田とも子 作曲

——稲垣足穂「チョコレート」による

多毛留 (偕成社版)<初演>

米倉齊加年 作・秋岸 寛久 作曲

語り 米倉齊加年(客演20日)/日色ともゑ(客演21日)

〔演出/高橋 清祐 照明/中山 功 音楽監督/田村 拓男〕

●日時=1988年1月20日(水)・1月21日(木) 午後7時

●場所=芝abc会館ホール

●入場料=2,500円(団体割引—10名以上申込みは事務局へ)

●チケット取扱い=日本音楽サービス 電話03-378-4741

箏

二十絃箏

箏を愛するすべての人の繊細な感情を忠実に音に表現するために、楽器の本質を追求した箏



オリジナル立奏台

日本音楽集団推薦

琴光堂和楽器店

東京都目黒区碑文谷2-19-15 TEL (792)8481

祝

100回定期記念シーズン



アイ・エム・エス

●楽器リース●保管●移動●ステージ・スタッフ派遣

〒167 東京都杉並区上荻 2-21-25
オリオンシャトー1F
PHONE. 03-397-2292